

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100058		
法人名	㈱嘉麻の杜		
事業所名	グループホーム 嘉麻の杜		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地13		
自己評価作成日	平成28年10月26日	評価結果確定日	平成28年11月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成28年11月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は開設5年目を迎える。山や田畑等の緑豊かな自然に囲まれており、四季の風景を楽しめる所にあります。嘉麻の杜理念でもある「我が家」としての機能を果たせる場の提供を充実させ利用者の機能をできるだけ維持できるよう調理の下準備・配膳・盛り付けなど積極的にお手伝いして頂いている。隣接する施設との春祭り、敬老会、クリスマス会の合同催事はご家族の皆様にも好評で、外出レクリエーションは季節感を満喫するとともに外食を楽しんで頂いている。これからもご家族や地域の方々のご意見を承りながら利用者の皆様が安心して楽しく過ごして頂けるよう、職員一同、信頼される施設を目指していく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会加入が継続し、地域の祭りの太鼓や獅子舞の来訪、住職による彼岸法要、隣接する系列グループホームと合同で開催する敬老会での保育園児と交流などが恒例となり、入居者の楽しみが継続されている。毎朝、遺影にお茶を供えたり、お経をあげる入居者もあり、理念の入居者のペースに合わせた生活空間づくりを実践している。地区消防団長や民生委員、地区交番の警察官、行政担当者、訪問看護師、入居者の全家族に運営推進会議を案内し、防犯や施設入居者を狙った犯罪に備える等の情報をいただいている。そして、訪問看護との連携で、体調変化の早期発見や緊急時の対応に努め、重度化した場合は入院前に主治医、家族、本人と話し合いの機会を設けている。新管理者や職員は、入居者同士の支え合いもあり、理念にある「安らぎと温もりのあるひとつの大きな家族」の生活を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム 嘉麻の杜**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所は開設5年目を迎え前方には田園風景、後方は山の自然にかこまれており、四季の変化を楽しめる所にある。嘉麻の杜理念は毎朝唱和し、理念の共有を計り、個々のペースに合わせた生活を出来る事を目標としている。	毎日、朝礼の際に理念を唱和している。毎朝、遺影にお茶を供えたり、毎日お経をあげる入居者もあり、個々の生活習慣が継続され、理念の入居者のペースに合わせた生活空間づくりを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加はしているものの、運営推進委員会の参加は今まで通りの参加者である。ご近所で面会に来られる方はおられるが、地域とのつながりはまだ日常的ではなく希薄である。	自治会加入が継続し、市政便りや回覧板が回ってくる。地域の祭りの太鼓や獅子舞の来訪、住職による彼岸法要、隣接する系列グループホームと合同で開催する敬老会での保育園児と交流などが恒例となり、入居者の楽しみが継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や祭り等のお誘いは行ってはいるが、認知症の人の理解や支援の方法等についての発信はまだ不十分である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事報告や利用者の日常生活を写真で貼りだし把握して頂いている。参加者からの質疑応答では意見を頂き、其の都度サービス向上に向け努力している。	会議を地区消防団長や民生委員、地区交番の警察官、行政担当者、訪問看護師、入居者の全家族に案内し、防犯や施設入居者を狙った犯罪に備える等の情報をいただいている。今後は、できるだけ多くの参加を得たいと、開催日時についてアンケートを実施し、日時の変更を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	嘉麻市からの案内があった時は出来る限り参加するようにしている。判断に迷う事があればすぐに相談させて頂いており、其の都度確かな回答を頂いている。	地域包括支援センターが主催する研修会には管理者やケアマネージャーが参加している。地域包括支援センターや高齢者福祉課とは日頃から、空き情報や入居の依頼等、相談や情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は昨年からは中止している。職員も身体拘束に関しては理解していると思う。	歩行器を使っている入居者の転倒が続いたため、職員全員で緊急のミーティングで話し合いをしている。身体拘束ゼロのもとに光センサーの設置や夜間のポータブルトイレとベッドの位置関係を見直したり、見守りの強化で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等への職員参加の機会を持ってないが、ミーティング等で言葉使い等について話し合いを持ったりして防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての制度等を学ぶ機会が少なく、職員全員が把握、理解できてない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する資料を整備しているが、活用される入居者はいない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員で学ぶ機会を持ち、入居契約時等に本人や家族に説明していただきたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約では理解しやすいように具体的に説明を行い、疑問点等の質問にはその場で対応を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の来所時にご意見・ご要望を伺っており、其の都度サービス向上に向け努力している。	入居者は外出先などの要望や意見を日々の暮らしの中で発言している。家族の来訪時には意見等を伺っているが、家族会が無いのでクリスマス会等の行事の際に家族だけで話し合う機会を設ける予定である。また、2ヶ月毎に、介護相談員2名の来訪がある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	通常の業務や月1回のミーティング時に、職員から出た提案や意見を事業主に報告し、反映している。	毎月、第3月曜日の職員ミーティングには事業主も参加している。意見や要望、気づき等を提案したり、ヒヤリハットや対策を話し合っている。入浴を担当する職員は入居者の肌の乾燥や打ち身などに気付いた時には、すぐに報告して対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の勤務状況等を把握しており、向上心を持って働けるよう勉強会等に参加する費用は会社にて負担してもらっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別での差別はなく、お互い助け合って働きやすい職場になっている。職員採用にあたっては、採用基準として「介護に対する情熱」を重視している。	ハローワーク、友人や系列施設からの紹介で職員の募集・採用を行っている。法人内の異動は無く、事業所毎に採用されている。外部研修の機会は少ないが、休日利用で参加し、参加費や交通費の補助がある。子育て中の職員には勤務時間に配慮し、資格試験に挑戦する職員や試験に向けて勉強中の職員がいる。	職員の段階に沿った年間研修計画の作成や研修の実施、外部研修の更なる参加の検討をお願いします。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝礼、ミーティングの中で利用者に対する接遇教育が行われている。	理念の入居者のプライバシーやプライベート空間の確保は、接遇から行われることを学んでいる。職員の声かけや、対応は穏やかであるが、大きな声や言葉使い等で気になる時は、管理者が注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社年数の浅い職員の研修はまだ1回だけで、内部研修は今年になって未だやっていない。但しミーティングでは全員の意見を交わしながら、記録の取り方や接遇等の介護の基本について勉強している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	隣接する施設との合同春祭り、敬老会、クリスマス会、慰問によるレクリエーション等で、意見交換や交流を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集を計り、出来る限り不安を取り除いて入居して頂きたいと思っている。新しい環境に慣れるまではこまめに声掛け、傾聴し、信頼関係を構築するよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の情報収集に心がけ、ご家族の要望を伺ったり、不安解消等に心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の意思を尊重し、ご家族とご本人が何を必要としているかを考え対応させて頂いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の要望や出来る事は声掛けしながら手伝って頂いたりして、職員も一緒に行い家庭生活の延長として捉えている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時や電話で最近の様子や生活ぶりを具体的にお伝えし、情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所からの面会があればいつでもお顔を見せに来て下さいと声をかけている。彼岸には近隣のお寺より来て頂き、関係が途切れない様になっている。	地域から入居者も複数あり、訪問された地域の方と和やかに談笑される姿がある。家族と電話で話したり、年賀状や暑中見舞いのやり取りも継続できるように支援している。家族と食事や祝い事に外出したり、お盆に自宅に外泊される入居者もある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	難聴の方、お話されない方等が孤立しないように職員が利用者同士の共通の話題を声掛けて自ら話をされてお互いが共感を持てるよう支援をしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も入院先のお見舞いや、変わった施設への訪問も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人の希望や意向をお聞きし、ミーティングでの話し合いをしたり、その時に応じて緊急対応している。	把握したフェイスシートやアセスメントシートに生活歴や嗜好、趣味等を整備したり、入浴時に本人から聞き取った意向は、ミーティングで全員に共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報提供の他に、訪問客にもご本人についてのお話を伺い生活史の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時間毎に個人記録を行い、入居者の心身の状態の把握に努めている。また隔週2回の訪問診療、訪問看護で健康管理も行っている。夜間の特変時には訪問看護に連絡し指示も仰いでいる。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	訪問時に家族、ご本人から意見を聞いてはいるが担当者会議やケア会議がまだ不十分な状態である。職員間や訪問診療、訪問看護の連携を充実し、介護計画をすすめている。	担当者会議や職員からの気づきを反映した介護計画を作成しているが、近日中に実施される行政の指導、助言を活かしながら、計画の見直しを検討している。	理念の「自分らしく生きる姿」を具現化するために、個々の入居者の生活習慣の継続を支援する介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果等に関しては個別記録に記入している。重要な事は看護記録や申し送り連絡帳に記載して、職員間で状況を把握している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者の中には仏壇を持っていただける方もいらっしゃるのですが彼岸には近所のお寺より彼岸供養をして頂いている。2人ほどご家族の了解を得て週2回、訪問マッサージ施行を行っている。2～3か月に1回訪問カットを行う。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市から派遣されている相談員が定期的に来て頂いたり、近くのお寺より彼岸供養して頂いているが、まだ地域資源の協働に関しては十分ではない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日赤病院と医療連携にて、訪問診療・訪問看護を隔週行っている。救急時には訪問看護の指示を受けたり、必要があれば入院が出来る体制が取れている。他にも3か月毎の眼科往診、必要時の歯科往診をしている。	医療連携の医院から訪問診療を受けている入居者が多いが、家族同行で専門医の受診をされたり、職員が同行する場合もある。2週間に1度の訪問看護と連携し、体調変化の早期発見や緊急時の対応に努めている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が気づいたことは訪問看護へ伝えて相談し、適切な対応を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日赤病院と医療連携しており、時には運営推進会にも参加して頂き、日頃から連絡を取り合っている。利用者の入院や退院後の事についての話し合いが出来ている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末のあり方については入居時の説明にてご理解をして頂いており、入院時には主治医・ご家族・職員同席のもと十分な話し合いを行っている。	入居契約時に、グループホームで提供できるサービスを説明している。重度化に対しては医療機関への搬送を基本に、入院前に主治医、家族、本人と話し合いの機会を設けている。調査日も入院後は施設入所と決まり、その家族が荷物を片づけに訪れ、感謝されながらホームを後にされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、救急救命講習を昨年全員行っており、今年はまだ指導をうけてないので早急に講習を受けられるよう努力する。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練・通報訓練・夜間想定避難訓練等を行っている。地域との協力体制は十分ではなく、協力体制の構築に努力して行く。	入居者と一緒に毎月、避難訓練を実施している。入居者にも実際に消火器を使用してもらったり、夜間想定や緊急連絡網の伝達にかかった時間を測り、緊急時や災害に備えている。AEDの講習会に参加している。	運営推進会議に地元消防団団長の参加もあるため、災害時における地域との協力関係の構築をお願いします。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護を行う上での基本的な言葉遣い、接遇など全員が守るように話し合い、気をつけるようにしている。	入居者の居室への訪問時には必ず声を掛けてから引き戸を開ける等、自尊心や羞恥心に配慮した対応を心がけるように、毎朝、朝礼で理念を振り返っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	殆どの入居者は自分の口で意志・希望を伝える事ができ、自己決定も大方出来ている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入浴等は決められた時間があるが、その他の時間は入居者のペースで自由に過ごして頂いており、要望があればそれに添えるよう支援を送っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服にならない様普段着にも気をつけ、外出時にはおしゃれな服装に着替える事でメリハリをつけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立や、庭でとれたトマト、ゴーヤ、ネギ、しそなどを調理に使ったり、食材の下準備、盛り付け、配膳等、職員と一緒にやっている。	二つのテーブルに分かれ、入居者のペースで楽しく食事を摂っている。目の悪い入居者や耳の遠い入居者は、職員が気配りや見守りを行っているが、入居者同士で、箸の使い方やみかんの食べ方をおしゃべりしながら、完食されている。外出時には外食を楽しんだり、家族と食事に出かける入居者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事が出来るよう献立を立てるよう心掛けている。十分な水分が取れるよう職員は声掛けを心掛けている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕は習慣がついておられるが、昼食後の清潔保持が確立してない。入れ歯使用の方は夜間は洗浄剤に漬けられる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の習慣や生活パターンを把握し1人1人の支援をおこなっている。	布パンツやパッド、紙パンツ等、ひとり一人の状況に合わせてながらトイレでの排泄を支援している。自立して尿意のある方にも、時には声かけや確認をして失敗を減らすように支援し、車椅子や歩行器を使用する入居者には、夜間はポータブルトイレの使用で転倒の	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護婦の指導の下、繊維食品の積極的な取り入れや水分補給の声かけを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯や曜日に関してはまだ出来てないが、入浴の方法に於いては個々の要望に添った支援を行っている。	週3回、午前中から入浴を支援している。明るく、広い浴槽にゆったりと浸かりながら、職員との会話を楽しむ入居者が多い。訪問診療のある入居者を優先したりするので、順番表は撤去している。入浴を億劫がる場合は、声掛けの工夫で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンに添えるよう支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態報告と共に服薬目的や副作用について話し合いを行い、処方変更時には申し送りや連絡ノートに記載し、職員に周知している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下準備、洗濯物たたみ、脳トレ、季節の壁紙工作など、個々の能力に応じた支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出や外食、隣接の施設との合同慰問など、利用者が楽しめる様な支援を送っている。	コスモス見学の外出計画が大雨で中止になったが、大きくなって坊主が飾られている。個々の入居者の外出支援は難しいが、病院受診の帰りにスーパーでオヤツの買い出しをしたり、家族との外出や近くを散歩して、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクリエーション時には自由に買い物が出来るようにしており、ご自分のお好きな物を購入する支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時は直接電話して頂いたり、職員が代わりに用件をお伝えしている。ご家族や知人に年賀はがきや暑中見舞いを書いて頂き、職員が代わりに投函している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に壁飾りを制作したり、加湿器・空気清浄器・エアコン等で部屋の快適さの調整を行っている。夏場は朝顔やゴーヤのカーテンを作り季節感や心地良い生活が出来るよう工夫している。	明るく開放的なリビングの壁には、行事の際の入居者の写真が飾られている。ガラスの向こうに庭木や里山の風景が見え、季節感を感じられる。居室へつながる廊下は広く、天窓から陽光が降り注いでいる。洗面所は横長に作られ清潔で、浴室やトイレは温度管理や防臭の配慮もあり、快適である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームに食卓とソファが置いてあり、それぞれが思いの場所で話をしたり、電動マッサージ機を使用されたり自由に過ごして頂いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参されたり、仏壇など持ち込まれている方もおられる。室内には家族の写真が飾られたり鉢植えの水やりをされたりする。	各居室入口には表札が掛けられ、目の悪い入居者の居室の入り口には紙で花が飾られている。居室は自宅から持ち込んだ家具や空気清浄機が設置され、趣味やお花で飾ったり、夫の大きな遺影にお茶が供えられたり、3年前の鉢植えがきれいな花を咲かせているなど、個々に応じた居室づくりが行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで、手すりを設置しており、各居室にはネームプレートで解かり易くしている。		